



今年4月1日に、本校校長として赴任しました八尋純次と申します。太宰府市教育委員会から異動してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。私が教員になってすぐに、右に示している言葉に出会いました。その日から、私は、「人に好かれ、人に当てにされ、人に頼られる」ようになりたいと思い、自分が住んでいる地域の中で貢献できるよう努めてきました。学校では、担任として卒業生を送り出すときには、誰かに頼りにされる人になってほしいと話してきました。

「よいこと」とは何かは、場面や相手によって変わってくるので、自分で考えなければなりません。もしかすると、正解はないかもしれません。自分で考えて行動して初めて正しかったかどうかはわかるのかもしれませんが、私自身、正解がわかって行動しているわけではありません。試行錯誤しています。しかし、1つだけ間違いないことは、科学技術がどれだけ進歩しても、人と人とのつながりは決してなくならないということです。学校は、教科の学習をするだけでなく、人との関係づくりを学ぶ場です。太宰府中学校のみなさんには、学校の中で多くの人とつながりをつくり、「好かれ、当てにされ、頼られる」人になってほしいと思います。

よいこと を 人に 頼り に され る	よいこと を 人に 当て に され る	よいこと を 人に 好か れる
---------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------

第47回入学式を挙行し、太宰府中学校の生徒が全員そろいました。

4月7日（月）に始業式を行い、9日（水）の第47回入学式で新入生117名を迎え、2年生137名、3年生132名、太宰府中生386名で、令和7年度をスタートすることができました。入学式の中で、1年生をあたたかく迎え安心させる「在校生からの歓迎の言葉」、力強く中学校生活を頑張ろうという決意が伝わる「新入生誓いの言葉」がありました。

学校長式辞では、新入生に中学校生活を送る上で、3つのお願いをしました。一つは、「何かをやってみようという気持ち」をもち続けてほしいということです。失敗したらどうしよう、間違ったらどうしようなど不安に思っていることは成長することはできません。毎日の勉強や部活動、学級の係や生徒会活動、行事の実行委員など中学校生活の中で、自分でやってみようと思えることを見つけ、挑戦してほしいと話しました。

二つは、「周りの人のことを大切にできる人」になってほしいということです。しっかりと相手の目を見て、大きな声で、笑顔で挨拶をすると気持ち伝わることを話しました。もう一つ、自分の周りの人を大切にしたい発言や行動ができる人になってほしいと話しました。

三つは、「自分と違う価値観を認めることができる人」になってほしいということです。私たちは一人ひとり違う考えや意見をもっており、みんなの考えや意見が違うからこそ、自分にはないものを周りの人たちからたくさん学べます。自分の考えや意見と違うからといって、人を避けたり、遠ざけたりせず、自分の思いを伝え、相手の思いを聞き、一緒に学び合うことができれば、きっと自分の心は豊かなものになっていくと話しました。

この話は、入学式に出席した在校生も聞いてくれたと思います。太宰府中学校の皆さんには、これら3つのことを意識して、日々の学校生活を過ごしてほしいと思います。

たいへんお世話になりました。

これまで太宰府中学校のために尽力された10名の先生方が3月末に離任されました。先生方から、たくさんの愛情を受け、大きな学びがあったと思います。先生方から学んだことを忘れずに、精一杯頑張っていきましょう。10名の先生方の新しい学校でのご活躍をお祈りします。これまで本当にありがとうございました。令和7年度の太宰府中学校が、さらに素晴らしい学校となるように、みんなで頑張っていこうと思います。

